

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	造形表現科		2020年度	前期・後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	デッサン 応用 I	実習・実技	大家泰仁 武井好之	2

授業の到達目標	<p>デッサンⅡ-2 石膏デザインは首像、胸像、半身像、全身像というように難易度が増します。進める上でデザインの手順や方法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 首像を顔として認識せずにモチーフとして正確に対象を把握する。 安定した構図で画面を収めることに留意する。 明暗をよく観察し、階調変化を表現する。 <p>デッサンⅡ-7 明部、暗部、地色の三つの関係から新たな石膏デッサンを模索する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地塗りからデッサンを始めることで、素材の扱いとその活かし方を体験する。
---------	--

授業の内容	<p>デッサンⅡ-2 この授業では、石膏像をモチーフとし、木炭デッサンを制作する。西洋画のアカデミックなデッサン教育の柱であるギリシャ、ローマ時代の彫刻を模した石膏像をモチーフに使う。この時代の彫刻は理想的なプロポーションやバランスの取れ量感を表現の核としているため、描くこと自体で美しいものに触れることになる。また、石膏像が白無地であることは、デッサンの基本的な形や明暗を描くトレーニングに適している。</p> <p>デッサンⅡ-7 この課題では半身像や全身像など大型の石膏像をドウ・クレヨンの手法で描きます。</p> <p>●ドウ・クレヨンとは・・・紙(支持体)に着色を施し、明部は白を使い、暗部は黒を使って、白黒の二色(仏語:deux)の描画材でデッサンを描く手法です。地塗りの色、白、黒の三つの関係からデッサンを模索します。</p> <p>授業では紙をパネルに水張りして有彩色を地塗りする所から初めます。普段の授業とは違う下地作りから石膏デッサンを進めることで、改めて素材を意識するとともに、新たな気持ちで石膏デッサンに臨んで下さい。</p> <p>●デッサンのポイント</p> <p>頭像、胸像から半身像、全身像となると、頭部、体幹部、上肢、下肢の各々の関係が重要になります。理想美を追求した石膏像にはこのような各部分に有機的な関係があると言われる。またそれは解剖学的な骨格、関節の繋がりがでもあります。</p> <p>光の明暗をしっかりと観察することが基本です。細部に気を取られずに大きく全体を掴んでください。また映像を面として捉えることが重要です。</p> <p>このようなデッサンの基本となるポイントを踏まえて、大胆に慎重にしっかりと描きましょう。</p>
-------	--

授業計画 及び 学習の内容

デッサンⅡ-2
前提講義後、制作(4日間)
デッサンⅡ-7
前提講義
制作 紙をパネルに水張りする。下地色に塗布する。 制作期間2週間。

成績評価の方法
成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講義会に出席する事を条件とする。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)

教員プロフィール参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
-------	-------------

木炭デッサン用具一式 クロッキー帳、クロッキー用具 ●クロッキー帳、クロッキー用具 ●パネル(B1サイズ) ●画用紙・TMKポスター(四六判) ●刷毛、水彩絵具、アクリル絵具等(地塗りに使用) ●白・白コンテ、色鉛筆(白色)、黒一鉛筆(2H~6B)、チャコールペンシル等	●石膏像(マルス、ジョルジュ) ●石膏像(胸像、全身像) ●顔料 ●アラビアゴム ●ジェルメディウム ●ボウル
---	--

配付資料

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	造形表現科		2020年度	前期・後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	デッサン 応用 II	実習・実技	中嶋 明	3

授業の到達目標	<p>樹木のデッサンでは、植物・樹木の構造の理解と質感の表現ができるようにする。構造をとらえながら、枝・葉など各部分個別の形態の違いを描けるようにする。屋外スケッチでは、普段の外出時などで目に入る後継への関心・観察眼を持てるようにする。</p> <p>複数のモチーフを組み合わせ、個々の関係性から全体の空間表現を意識する。</p> <p>画面の切り取り方、知と図の関係から生ずる様々な形に留意し、モチーフを、画面を構成する要素として認識する視点を身に着ける。</p> <p>動物主体のデッサンでは、自然なプロポーション、質感を表現できるように。物と物との関わり合いの表現ができるように。</p>
---------	---

授業の内容	<p>「樹木を描く」 教室内では観葉植物や他モチーフを組み合わせた静物画を制作する。特に植物の構造や質感を意識して描写する。</p> <p>授業のうち、1～2日は、屋外で樹木をスケッチする。鉢植えと屋外の生木の違いに留意し、全体のフォルムや構造、空気感を捉える。全体の描写、部分的な描写、など構造等を理解するために複数描いてもよい。</p> <p>「鉛筆大型静物」 木炭紙サイズの画用紙に複数の大型モチーフを組み合わせて描く。様々な形体や質感のモチーフを一つにまとめていくためには、画面の組み立てが大切になる。ここでは作品に取りかかる前に構図を検討する複数のエスキースを制作する。</p> <p>「動物主体のデッサン」 動物はく製は静物のモチーフとして魅力のあるものである。もちろん生き物ですから有機的な形態、表情、色合いなど人工物と組み合わせることでより一層デッサンを楽しませてくれる。大きめなモチーフのなかからどこを見せ場にするかや、各自の興味、視点が強く出せると思われる。</p>
-------	---

授業計画 及び 学習の内容

デッサンⅡ-3	鉛筆または木炭で、樹木を描く。 解剖学概論についての講義を行ったあと、制作を始める。
デッサンⅡ-1	鉛筆で木炭紙に、大型の複数のモチーフをくみあわせて描く。
デッサンⅡ-6	動物のはく製をデッサン。

成績評価の方法	<p>成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。</p> <p>作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。</p>
---------	---

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)	<p>担当教員は海外美術館で研修、また複数の大学で指導経験あり。</p>
----------------------	--------------------------------------

授業持ち物 鉛筆デッサン用具一式、 木炭デッサン用具一式 クロッキー帳、クロッキー用具	<p>学校で準備する教材など モチーフ</p>
--	-----------------------------

配付資料	
------	--

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	造形表現科		2020年度	前期・後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	デッサン 応用 III	実習・実技	大家泰仁 結城康太郎	2
授業の到達目標	<p>デッサンⅡ-4 ・人体の骨格から筋肉へ、各部の構造に対する理解を深める。 ・人体の外側と内側(骨格・筋肉)を造形要素として捉えて作画に展開する。</p> <p>デッサンⅡ-5 ・クロッキーでは人体の全身を描き、造形表現を学ぶ。 ・デッサンでは人体の部分を描写して、そこから独自の視点と作画方法の模索する。</p> <p>クロッキーⅡ 描写することと、観察することを一旦分けて取り組むことにより、新鮮なフォルムと出会ってみましょう。</p>			
授業の内容	<p>デッサンⅡ-4 人体デッサンは通常、身体を外側から観察して描きます。ただ身体の外見は、骨格や筋肉等の内部の構造と表裏一体にあります。 この課題では人体の骨格と筋肉に焦点を当て、模造紙大の画面に人体を描き、描いた像の上から骨格や筋肉を描きます。身体の外側と内側の両面からの作画を通じて、人体の形の理解を高めます。</p> <p>デッサンⅡ-5 「全体と部分」 通常人体デッサン(習作)を描く場合、画面にモデルの全身を収めるよう「全身像」、あるいは「半身像」で描きます。ここには構図の取り方、プロポーションや重心、バランスなど人体を描く上で不可欠な作画上の要素があります。一方人体の描き方は時代と共に広がりを見せ、現代では各作家ごとの自由で様々な人体表現があります。人体表現には既成概念のない視点が求められる、と言っても過言ではありません。見えるもの、気になるモノを直接的に写し取る、「部分」を直截に描くこともデッサンの一つのあり方です。</p> <p>この課題では人体の全身(マクロ)を描くクロッキーと、部分(ミクロ)から描くデッサンの二つの取り組みを行います。</p> <p>●クロッキー…クロッキーでは人体の全身像を描いてください。</p> <p>クロッキーのポイント ・プロポーション(比例)、コンポジション(構造、相立)、ムーヴマン(動勢)、マッサ(塊、量 感)と言う概念を把握し、表現していくことを心がける。</p> <p>●デッサン…「部分」 デッサンでは各自の視点からモデルの描きたい部分を自由にピックアップします。例えば「背中」「腰」「顔と肩」など身体の気になる箇所から重点的に描きます。先入観に捉われず、興味のある部分をありのままに描くこと、じっくりと納得のいくディテールを描くことが目的となります。</p> <p>クロッキーⅡ ヌードと着衣、両方のモデルを描きます。描画材の持ち方を変えてみたり、モデルだけを観て、画面を見ないで描く時間も作ってみます。</p>			
授業計画 及び 学習の内容				
デッサンⅡ-4				
前提講義後、制作(2週間)				
デッサンⅡ-5				
前提講義後、制作(2週間)				
クロッキーⅡ				
前提講義後、制作(4日間)				
成績評価の方法				
成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
教員プロフィール参照				
授業持ち物 鉛筆デッサン用具一式、 木炭デッサン用具一式 クロッキー帳、クロッキー用具		学校で準備する教材など モチーフ モデル		
配付資料				

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	造形表現科		2020年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	造形演習応用	講義・演習	永井俊一	4

授業の到達目標	<p>イメージと色彩Ⅱ：色を区別し、表すための三つの要素である、色相・彩度・明度を理解する。 素描模写Ⅱ：「素描」の概念をワンランク向上させ、タブローとしても成り立つ素描制作を体感する。 パステルⅡ：偶然の混色、重色からパステルという描画材の特性を知る。</p>
---------	---

授業の内容	<p>イメージと色彩Ⅱ パウルクレーの絵を参考にしながら身近なモチーフを使って、フォルム、明暗や色彩を理解してもらう。</p> <p>素描模写Ⅱ 様々な作家の素描を調査、鑑賞する。 教員と相談しながら模写の題材を決める。 題材は「人物」「動植物」「風景」などから選択し、制作する。</p> <p>パステルⅡ 静物のモチーフを観察して描き、一定時間でモチーフを組み替えて同じ紙に描き続ける。予想外の出会いから発見がある。</p>
-------	--

授業計画 及び 学習の内容	
イメージと色彩Ⅱ	F6の水張りした厚手(300グラムくらいの)の水彩紙を2枚使い、暖色、寒色の作品2点を制作する。
素描模写Ⅱ	TMKポスター紙(B3サイズ)、鉛筆、コンテ、ペン等画材は題材に合わせて自由。
パステルⅡ	マーメイド紙など凹凸のある紙B3程度に、パステルという呼び名の付くものなら、いずれも可。クレパスもOK。

成績評価の方法	<p>成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。 作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。</p>
---------	---

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)	<p>担当教員は一般企業において長く商品アート制作、商品デザイン制作に従事。また美術館と大学の共同プロジェクトにも参加し、社会活動も行っている。</p>
----------------------	--

授業持ち物 水彩用具一式 クロッキー帳 鉛筆、コンテ、ペン パステル	学校で準備する教材など モチーフ 教材用図版
--	------------------------------

配付資料	
------	--

開講課程	開講学科	開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	造形表現科	2020年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形演習応用 I	実習・実技	中嶋 明 加藤健二

授業の到達目標	<p>絵画Ⅱ-1 絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構造的に組み立てるシステムとしての側面を理解していく。不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。</p> <p>絵画Ⅱ-2 絵画の具象抽象問わず普遍的な要素でもある平面化を实践し、抽象の入り口に赴き、更にはその鑑賞能力を高める</p> <p>絵画Ⅱ-4 今回は静物と人体をモチーフとして、(外的要因)のドーイングを通して内的なイメージに変換し、新鮮な感覚との出会いをめざす。内的イメージの発掘と拡張。</p>
---------	--

授業の内容	<p>絵画Ⅱ-1 ○本炭によるデッサンから始め、油絵具のシルバーホワイトとピーチブラックの白黒の2色のみで描いていく。 ○形体と空間、材質感など油絵で描くデッサンとしてひとまず完成させる。 ○モノトーンの絵画として描き終えた後、透明度の高い有彩色で色彩を整える。</p> <p>絵画Ⅱ-2 現代絵画の1様式としての「平面化」を試みる。 「平面化」は、現代様式ではあるが実は決して新しく無い。ルネサンス以前の絵画は遠近法の未発達もあって、空間意識が異なり結果的に平面になっている。そのルネサンスによって確立された空間も1世紀も経つと遠近法に轉られない絵も出現し、数世紀後にはキュビズム台頭によってメインストリームから外れていく。つまり絵画の歴史を辿ると、むしろ平面傾向の時代が長く、三次元的な空間を意識したのは数百年程度だったと考えられる。今では1部のジャンルにその影響を残す。現代の平面化はルネサンス以前と違い意識的に行っていて、遠近法を経験してきた分背景の奥行や形態の厚み等、自在にコントロール出来るように発達してきた感がある。</p> <p>内容 モチーフは静物だけでも、人物との組合も考えてみましょう。 エスキースを充実させ本画に入る。</p> <p>絵画Ⅱ-4 絵画の制作は A:外界からの刺激を基本として変容してゆく B:内的世界(経験・記憶)を中心として想像力(イメージ)の拡張が個人レベルで複合化し実行されてゆく</p>
-------	---

授業計画 及び 学習の内容

絵画Ⅱ-1 グリサイユ応用
前提講義後、制作(4週間)
絵画Ⅱ-2 平面化とマチエール・絵肌の展開
前提講義後、制作(3週間) 初日に小品制作を行いますので、F4号キャンバスを準備すること
絵画Ⅱ-4 具象表現から抽象表現へ
1 前提講義・制作(10:00~11:00)その後は各自自習
2 制作 (静物モチーフセット)ドーイング 水性系統の具 画用紙B2サイズ
3 制作 人物ヌードモデル ドローイング 水性系統の具 画用紙B2サイズ
4 制作 静物モチーフ ドローイング 1の画用紙を利用する(重ね描き)
5 制作 人物ヌードモデル ドローイング 2の画用紙を利用する(重ね描き)
6 制作 静物モチーフ 静物ドーイング最終日とする
7 制作 人物ヌードモデル 人物ドーイング最終日とする
8 制作 静物、人物ドーイングの総合化1
9 制作 静物、人物ドーイングの総合化2
10 制作 20号サイズの平面作品に取り組み アクリル絵の具 油絵の具 キャンバス、パネル使用
最終制作4日間、展覧

成績評価の方法
成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講義会に出席する事を条件とする。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
教員プロフィール参照

<p>授業持ち物 F15号キャンバス・クロッキー帳・木炭・油絵具 F4号キャンバス(初日制作用) F20~30号キャンバス 水彩系統の具、画用紙B2サイズ×2~4枚 油彩(またはアクリル)用具、キャンバス20号</p>	<p>学校で準備する教材など モチーフ、モデル 教材用図版</p>
配付資料	

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	造形表現科		2020年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	造形表現応用Ⅱ	実習・実技	佐々木量 佐藤泰生	4

授業の到達目標	<p>絵画Ⅱ-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デッサン、エスキース、本画という流れを意識して取り組む。 ・改めて人体デッサンを新鮮な気持ちで取り組む。 ・エスキースは時間の限り、多量に制作し、かつ色彩まで構築する。 ・この講座を通じて、モチーフからスタートして何を表現したいかを考える。 <p>絵画Ⅱ-5</p> <p>制作上のもうひとつのポイントは“今を描く”というテーマです。あなたにとって“今”とは何かを考え、人間と建物によってそれを表現してください。それぞれの独自の視点でオリジナリティのある発想での作品制作を期待します。</p>
---------	---

授業の内容	<p>絵画Ⅱ-3</p> <p>人体のさまざまな角度や姿勢のデッサンを基にして、その構成によるエスキースを作成し油彩画として完成させる講座です。人体は古くから絵画表現の主要なモチーフとされてきましたが、西洋においては宗教上の理由でヌードが厳々とモチーフとされるようになったのは今昔ではありません。</p> <p>ヌードは今日においても重要な絵画モチーフです。その理由を考えると2つの視点で考察することができます。人体のフォルムは生命体の中でも複雑で、動きや姿勢で多様な様相を見せます。その形態の面白さは十分に描き手を刺激するものです。また人間が最も関心を抱くのが人間であることは言うまでもありません。モデルから受ける印象や感情からは、時には心理状態や人間性も伝わってきます。それを描くことによって、描き手に内在している感情や心理状態も作品のなかに閉じ込めることになります。こうしたヌードを描くうえでさまざまな思想的、心理的、感情的なやり取りがエスキースの過程で、どう構図や構成として整理し、本がの表現のなかに生かしていかうかがデッサン、エスキース、本画の制作の流れのなかでのテーマになります。</p> <p>人間と建物をモチーフに30号の油彩作品を制作します。</p> <p>4週間に3つに分け1週目をスケッチ、写真資料の収集などに当てテーマへのアプローチを期待します。2週目はスケッチ、クロッキー、写真などの材料によってエスキースづくりをしてください。2つの過程を通じて足りないものが見えてきます。更に足りない材料を準備してください。また、作品のタイトルを考えることで見えてくるものもあります。この期間にタイトルを考えることで、作品制作への思考を深めるきっかけになります。エスキースはできるだけ作成し最終的に1枚に絞り込みます。そのエスキースをもとに残りの2週で本画を制作します。</p> <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料集めはクロッキー帳一冊を描き切るくらいやるつもりで。 ・写真や雑誌なども含め材料集めは多角的に。 ・エスキースはできるだけ多様に作成する。 ・テーマに沿った画面構成を十分に検討する。 ・人物は普段の生活の中で気がなつたらクロッキーをする。 ・コスチュームモデルを一回使うので、それを活かすことも考える。 ・写真を写すのでなく、楽しく描く方法をそれぞれ考えてください。
-------	--

授業計画 及び 学習の内容

<p>絵画Ⅱ-3</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講師紹介・学習意図・クロッキー開始 2 固定ポーズによるデッサン 3 油絵具・水彩絵具・パステルによる制作(20号程度のキャンバス) 荒描き 4 背景と同時進行で描く 5 6 仕上げ 7 クロッキー 8 固定ポーズによるデッサン 9 油絵具・水性絵具・パステルによる制作(20号程度のキャンバス) 荒描き 10 人物と背景との明度対比に留意 11 12 仕上げ 13 上記2枚(立ち・座り)の絵を参考に、2人の人物を組み合わせた人物画を描く(30号キャンバス)構図の研究、荒描き 14 15 2人の位置と大きさに注意 16 17 顔と手に留意 18 仕上げ 19 今までの制作を参考に2人の人物を組み合わせた大作に挑戦する(30号以上のキャンバス)構図の研究 20 2人の位置と大きさに注意 21 人物と背景との明度比に注意 22 顔と手に留意 23 仕上げ
--

<p>絵画Ⅱ-5</p> <p>前提講義後、街スケッチ(4週間)</p>

<p>成績評価の方法</p> <p>成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。</p>

<p>教員の実務経験(企業や団体での実務経験)</p> <p>教員プロフィール参照</p>
--

<p>授業持ち物</p> <p>デッサン・クロッキー用具、 クロッキー帳(木炭紙大)、木炭、コンテ、芯鉛筆等 キャンバス(20号程度を2枚、30号程度を1枚、30号以上を1枚)</p> <p>○普段使っているクロッキー帳や画材 ○エスキース作りに自分が必要だと思える資料、スケッチ、ノリなど ○キャンバスサイズ 30号 *モデルさんが入るときは、自分がモデルさんにしてもらいポーズをリクエストしてもらいますので、各々考えておいてください。</p> <p>配付資料</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <p>モデル モチーフ</p>
---	--

渋谷ファッション&アート専門学校

2020年度 シラバス(文化専門課程)

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	造形表現科		2020年度	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	造形表現修了制作	実習・実技	中嶋明 菊地達也 永井俊一 浅野純人	8

授業の到達目標	現時点での制作スキルを生かし、外部に発表した際に一般の鑑賞に堪える作品を制作する
---------	--

授業の内容	<p>本校は1年制の学校であるため、1年毎に修了となります。そのため1年間の学習の成果を問う形で、毎年修了制作作品を制作します。</p> <p>現時点での各人の制作スキルを活かし、制作テーマを考え、集中的に作品を制作する機会が修了制作です。普段、取り組んできた課題作品を生かして、その反省点や新しい切り口で制作するのによいと思います。また、日頃こんなことを描いてみたいと考えていたテーマを形にしてみるのも良いと思います。いずれにしろ、各人の制作の構想、エスキースを元に先生方と相談しながら進行していきます。</p> <p>※制作期間中に中間講評を、修了制作展の期間中に公開講評を行います。</p>
-------	--

授業計画 及び 学習の内容	
前提講義後、制作(9週間)	

成績評価の方法	<p>成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。</p>
---------	---

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)	
教員プロフィール参照	

授業持ち物	学校で準備する教材など
デッサン用具一式、油彩道具一式 キャンパス(50号)	

配付資料	
------	--